

平成26年4月22日に全国一斉に実施された「全国学力・学習状況調査」(以下「全国調査」)について、京都市の状況を公表いたします。

小学校、中学校ともに、国語、算数・数学の2教科(A・B問題)全てにおいて全国平均を上回る概ね良好な結果です。

1 調査の概要

(1) 実施日 平成26年4月22日(火)

(2) 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年

(3) 実施教科等

① 教科(国語、算数・数学)に関する調査

「主として知識に関する問題(A問題)」と「主として活用に関する問題(B問題)」

② 児童生徒質問紙調査

③ 学校質問紙調査

(4) 実施学校数・参加人数<公立学校>(4月22日実施分)(※総合支援学校含む)

	実施学校数	参加人数
小学校	166 / 167 校	10,483 人
中学校	73 / 74 校	9,695 人

*未実施校2校(小学校1校、中学校1校)は対象児童・生徒なし。

全国調査は、子どもたちの学習状況をより良くするためのものです。順位を競うものではなく、その調査結果が学力の全てを示しているわけではありません。学力向上のためには、学校と家庭・地域での地道な取組を重ね、日々の生活習慣・学習習慣を身に付けさせることが何より必要です。

京都市では、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」という理念のもと、市民ぐるみ・地域ぐるみの開かれた学校づくりを推進する中で、子どもたちの学習習慣の定着や学習意欲の向上を支援していきます。

2 教科に関する調査の結果について

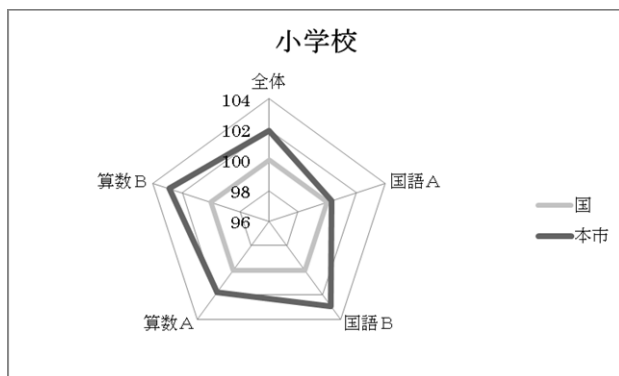
(1) 小学校調査（6年生）＜公立学校＞

	国語 A（知識）		国語 B（活用）		算数 A（知識）		算数 B（活用）	
	平均正答率	指数	平均正答率	指数	平均正答率	指数	平均正答率	指数
京都市	73.1	100.3	57.1	102.9	79.5	101.8	59.9	102.9
京都府	73.3	100.5	56.9	102.5	79.9	102.3	59.7	102.6
全 国	72.9	100.0	55.5	100.0	78.1	100.0	58.2	100.0

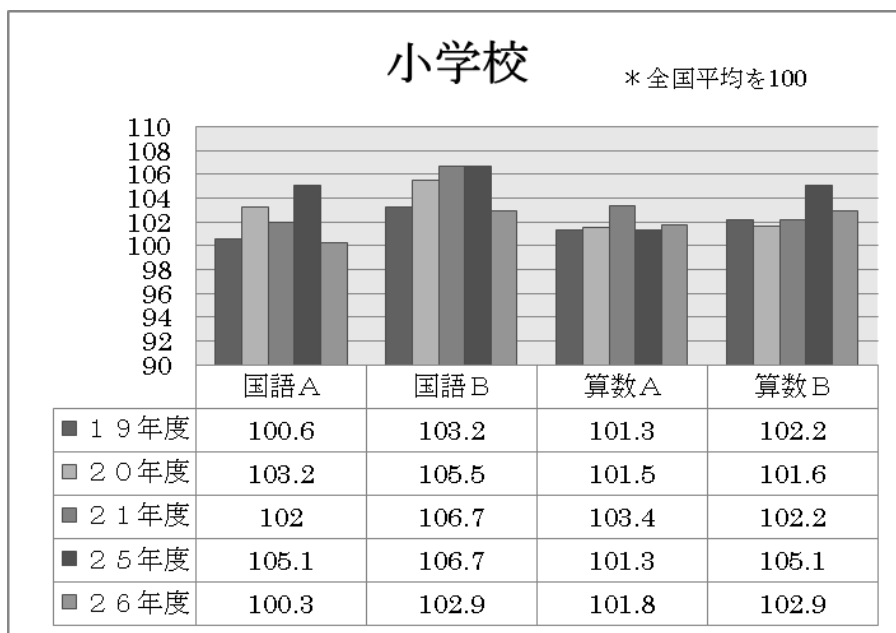
＊ A 調査…主として知識に関する調査， B 調査…主として活用に関する調査（以下同じ）

＊指 数…全国の平均正答率を 100 とした場合の京都市（京都府）の平均正答率の割合（以下同じ）

◆各教科別指数（全国を 100）



◆本市の経年変化（指数）



＊平成 22 年度，24 年度は抽出調査のため除く。平成 23 年度は東日本大震災のため中止。

◆分析・問題例

小学校の平均正答率は、全国平均をそれぞれ 0.2～1.7 ポイント上回っています。主として活用に関する問題が出題された B 問題では、国語 B は全国平均を 1.6 ポイント、算数 B は 1.7 ポイント上回っています。

また、無解答率も国語・算数ともに全国平均と比べて低く、特に算数科の記述式問題での正答率が高いのが特徴です。

<国語>

○平均正答率は、全国平均を国語 A で 0.2 ポイント、国語 B で 1.6 ポイント上回っています。
○しかし、基礎的・基本的な知識・技能の定着状況（A 問題）や読み比べて解釈の違いをとらえること（B 問題）に課題も見受けられます。

全国平均と比べて特に正答率が高かった問題

■ B 問題 ③ 三 二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く問題

正答率 **55.0%**（全国平均 **48.1%**） 無解答率 19.6%（全国平均 26.0%）

全国平均と比べて特に正答率が低かった問題

■ A 問題 ② 一 故事成語の使い方として適切なものを選ぶ問題 「五十歩百歩」

正答率 **47.1%**（全国平均 **55.8%**） 無解答率 0.2%（全国平均 0.3%）

■ B 問題 ③ 二 詩の解釈における着眼点の違いを捉える問題

正答率 **45.4%**（全国平均 **48.5%**） 無解答率 17.5%（全国平均 19.8%）

<算数>

○平均正答率は、全国平均を算数 A で 1.4 ポイント、算数 B で 1.7 ポイント上回っています。
○A 問題より B 問題の結果が良好です。特に、「数学的な考え方」「記述式問題」での正答率が高くなっています。
○しかし、立体図形の見方（A 問題）に課題が見受けられます。

全国平均と比べて特に正答率が高かった問題

■ B 問題 ① (2) 示された計算のきまりを基に、 37×24 の積が 888 になることを書く問題

正答率 **59.4%**（全国平均 **55.2%**） 無解答率 4.8%（全国平均 6.0%）

■ B 問題 ⑤ (3) 示された情報を整理し、道筋を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述する問題

正答率 **37.2%**（全国平均 **33.0%**） 無解答率 9.6%（全国平均 13.1%）

全国平均と比べて正答率が低かった問題

■ A 問題 ⑤ (2) 1 cm^3 の立方体を基に、示された直方体の体積を求める問題

正答率 **80.1%**（全国平均 **81.1%**） 無解答率 1.8%（全国平均 1.8%）

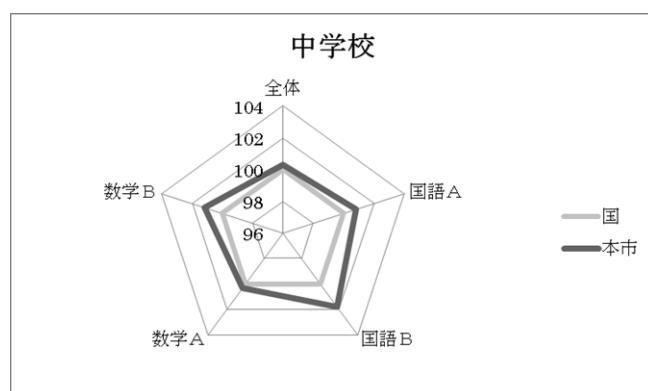
■ A 問題 ⑦ 縦 5 cm、横 11 cm、高さ 4 cm の直方体の面㊦になる四角形を選ぶ問題

正答率 **69.2%**（全国平均 **69.4%**） 無解答率 0.3%（全国平均 0.7%）

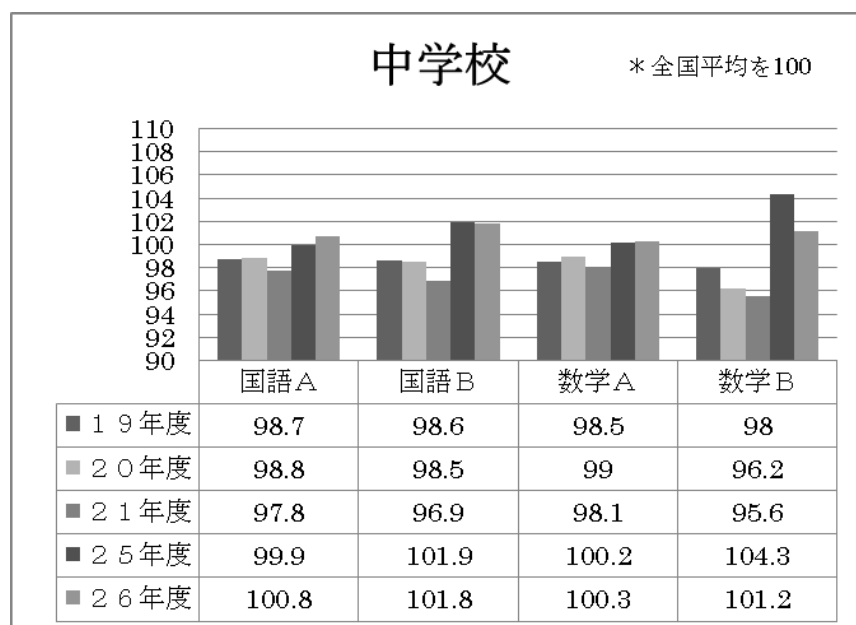
(2) 中学校調査（3年生）＜公立学校＞

	国語A（知識）		国語B（活用）		数学A（知識）		数学B（活用）	
	平均正答率	指数	平均正答率	指数	平均正答率	指数	平均正答率	指数
京都市	80.0	100.8	51.9	101.8	67.6	100.3	60.5	101.2
京都府	79.4	100.0	51.3	100.6	67.7	100.4	60.1	100.5
全 国	79.4	100.0	51.0	100.0	67.4	100.0	59.8	100.0

◆各教科別指数（全国を100）



◆本市の経年変化（指数）



* 平成22年度、24年度は抽出調査のため除く。平成23年度は東日本大震災のため中止。

◆分析・問題例

中学校の平均正答率は、全国平均をそれぞれ 0.2～0.9 ポイント上回っています。主として活用に関する問題が出題された B 問題についてみると、国語 B は全国平均を 0.9 ポイント、数学 B は 0.7 ポイント上回っています。

また、無解答率は、小学校と同様、全般的に国語・数学ともに全国平均と比べて低く、特に数学 B の無解答率は 25 年度と比べて大きく減少しています。生徒が問題にきちんと向き合い、どの問題に対しても最後まであきらめないで取り組もうとする学習姿勢が育まれつつあるといえます。

<国語>

- 平均正答率は、全国平均を国語 A で 0.6 ポイント、国語 B で 0.9 ポイント上回っています。
○しかし、言語に関する知識の一部（A 問題）に課題が見られます。

全国平均と比べて特に正答率の高かった問題

- A 問題 ② 二 伝えたい心情をふさわしい言葉に書き換える問題
正答率 **82.2%**（国平均 **79.8%**） 無解答率 6.5%（全国平均 9.2%）
- A 問題 ⑦ 二 文章の構成を変える理由として適切なものを選択する問題
正答率 **74.7%**（国平均 **72.1%**） 無解答率 0.8%（全国平均 1.0%）
- B 問題 ① 三 標語から伝わる「メッセージ」と「表現の工夫とその効果」を記述する問題
正答率 **53.1%**（国平均 **48.2%**） 無解答率 2.2%（全国平均 3.4%）

全国平均と比べて特に正答率が低かった問題

- A 問題 ⑧ 一（1） 文脈に即して漢字を正しく書く問題 「招待」
正答率 **54.5%**（全国平均 **57.6%**） 無解答率 10.7%（全国平均 12.3%）
- A 問題 ⑧ 二（1） 文脈に即して漢字を正しく読む問題 「稚魚」
正答率 **74.0%**（全国平均 **77.0%**） 無解答率 6.9%（全国平均 7.7%）

<数学>

- 平均正答率は、全国平均を数学 A で 0.2 ポイント、数学 B で 0.7 ポイント上回っています。
○しかし、資料の活用に課題が見られます。

全国平均と比べて特に正答率の高かった問題

- A 問題 ① ② 指数を含む正の数と負の数の計算問題
正答率 **74.2%**（全国平均 **70.7%**） 無解答率 1.3%（全国平均 1.5%）
- A 問題 ⑩ ① 比例の関係を式に表す問題
正答率 **60.7%**（全国平均 **56.7%**） 無解答率 10.3%（全国平均 13.0%）
- B 問題 ② ②③ 事柄が成り立たない理由を説明する問題
② 正答率 **68.8%**（全国平均 **65.4%**） 無解答率 7.8%（全国平均 9.0%）
③ 正答率 **47.5%**（全国平均 **44.2%**） 無解答率 4.4%（全国平均 6.3%）

全国平均と比べて特に正答率が低かった問題

- A問題 13 (1) 度数分布表から相対度数を求める問題

正答率 **34.4%** (国平均 **42.7%**) 無解答率 14.4% (国平均 16.7%)

- B問題 6 (1) 与えられたグラフを事象に即して解釈する問題

正答率 **58.8%** (国平均 **62.7%**) 無解答率 8.3% (国平均 9.0%)

3 児童生徒質問紙調査に関する結果について

各校における基礎・基本の学習の徹底、適切な評価に基づく指導方法の工夫・改善が進むと同時に、児童生徒の学校生活・社会生活での意識が変化し、学習に対する関心・意欲・態度が少しずつ向上していることが今回の結果に表れています。

「確かな学力」は、「豊かな心」「健やかな体」と密接に関連しており、それぞれが有機的に結びついて、はじめて子どもに「生きる力」を育成することができます。

ここでは、「学習時間・家庭学習」、「読書時間」、「自尊感情・規範意識」「ゲーム・携帯電話の利用」「地域行事への参加」など、児童生徒の生活習慣と学力との関係について特徴的なものをあげています。

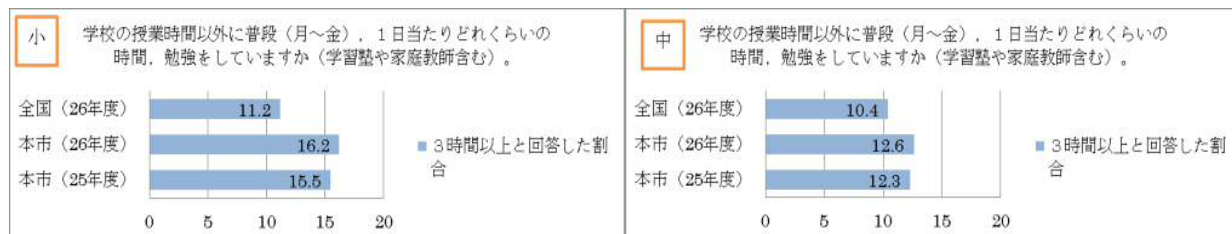
確かな学力の定着・向上のためには、家庭学習をはじめとする自学自習の学習サイクルの確立をはじめ、日々の生活において、子どもたちに「規範意識」や「自尊感情」を育成し、地域や社会に関心を持たせる取組など、家庭・地域・学校における、継続的な取組が重要であることが読み取れる結果となっています。

(1) 学習時間・家庭学習

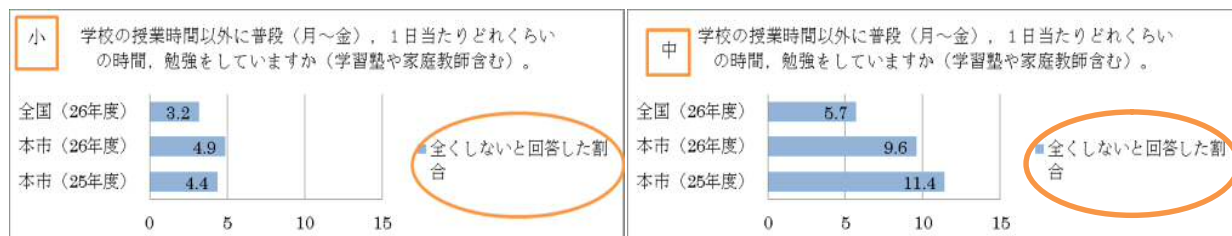
小中学校ともに、授業以外で「1日3時間以上勉強する」児童生徒の割合は、全国平均と比べて上回っている一方で、「全くしない」と答えた児童生徒の割合も、全国平均より多くなっています。

全国的な傾向ですが、小中学校ともに、「宿題や家庭学習ができている児童生徒ほど、正答率が高い」傾向にあり、京都市でも、その傾向は顕著に表れています。

○平日学習時間（3時間以上） ＊単位（％） 以下同じ



○平日学習時間（全くしない）



【小学校クロス集計】

*その他、無回答を除くため、児童数割合は必ずしも 100%とはならない（以下同じ）

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	算数A	算数B
3時間以上	16.2	82.4	68.1	88.7	73.6
2時間以上, 3時間未満	14.6	75.7	60.3	82.6	63.0
1時間以上, 2時間未満	29.0	73.1	57.5	80.0	59.6
30分以上, 1時間未満	23.9	71.1	54.3	77.1	56.9
30分より少ない	11.1	66.4	49.2	72.4	50.9
全くしない	4.9	62.0	42.8	67.4	44.1

【中学校クロス集計】

選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	数学A	数学B
3時間以上	12.6	82.2	55.9	73.5	65.7
2時間以上, 3時間未満	22.2	81.8	53.9	71.6	64.0
1時間以上, 2時間未満	27.6	80.7	52.5	69.3	61.8
30分以上, 1時間未満	15.8	80.0	52.6	67.3	61.3
30分より少ない	12.1	78.3	49.2	61.6	55.5
全くしない	9.6	73.1	43.3	54.1	47.9

○家での計画的な学習



【小学校クロス集計】

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	算数A	算数B
している	23.6	79.1	64.4	85.4	68.2
どちらかといえばしている	33.8	75.5	60.1	82.0	62.8
あまりしていない	31.9	69.5	52.6	75.8	55.1
全くしていない	10.6	63.7	45.7	70.4	47.1

【中学校クロス集計】

選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	数学A	数学B
している	12.6	82.6	56.0	73.2	65.9
どちらかといえばしている	29.1	82.3	54.9	71.8	64.8
あまりしていない	38.2	79.6	51.0	66.4	59.3
全くしていない	20.0	76.0	47.1	60.6	53.6

○宿題



【小学校クロス集計】

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語A	国語B	算数A	算数B
している	86.4	74.8	59.3	81.2	62.0
どちらかといえばしている	10.0	64.8	46.1	71.6	49.3
あまりしていない	2.6	56.9	36.6	62.5	40.4
全くしていない	0.8	55.4	39.4	61.6	39.9

【中学校クロス集計】

選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語A	国語B	数学A	数学B
している	55.7	82.4	55.1	71.7	64.7
どちらかといえばしている	30.2	78.8	50.1	64.9	58.1
あまりしていない	10.0	75.1	44.6	59.7	51.7
全くしていない	4.0	68.7	40.9	51.1	43.7

(2) 読書

「読書好き」の児童生徒は、昨年度と比べて小学校で増加し、中学校でほぼ横ばいの状況となっています。また、学力との相関関係も見られます。

平日に読書を全くしないという児童生徒の平均正答率は、読書をする児童生徒と比べて低いという結果になりました。一方、読書時間が長ければ長いほど、平均正答率が高くなるという相関関係はみられませんでした。

○読書好きか



【小学校クロス集計】

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	算数A	算数B
当てはまる	46.2	78.6	62.4	82.4	64.6
どちらかといえば当てはまる	24.3	71.2	55.5	78.6	58.5
どちらかといえば当てはまらない	17.0	68.9	53.1	77.9	56.8
当てはまらない	12.3	63.1	47.2	74.1	50.6

【中学校クロス集計】

選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	数学A	数学B
当てはまる	40.4	85.0	59.2	71.9	65.7
どちらかといえば当てはまる	24.4	80.6	52.4	68.0	61.0
どちらかといえば当てはまらない	18.1	76.6	46.9	65.3	57.8
当てはまらない	16.8	71.1	39.6	59.6	50.9

○読書時間



【小学校クロス集計】

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	算数A	算数B
2時間以上	7.8	78.3	61.5	80.6	63.1
1時間以上，2時間未満	9.5	76.8	61.3	81.0	62.7
30分以上，1時間未満	18.8	77.6	62.2	82.9	64.7
10分以上，30分未満	27.4	74.5	58.8	81.0	62.0
10分より少ない	17.0	69.2	52.7	77.2	56.4
全くしない	19.3	66.5	50.4	75.3	53.1

【中学校クロス集計】

選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	数学A	数学B
2時間以上	6.3	80.9	54.3	64.9	57.6
1時間以上，2時間未満	7.5	84.7	58.5	70.9	64.8
30分以上，1時間未満	13.0	83.4	56.6	70.8	64.8
10分以上，30分未満	21.6	82.7	56.0	71.9	65.3
10分より少ない	15.2	79.3	51.6	67.6	60.6
全くしない	36.3	76.4	46.2	63.8	55.9

(3) 自尊感情, 規範意識

「学校のきまりを守っている」「自分にはよいところがあると思う」など、規範意識・自尊感情が高い子どもほど学力が高いという傾向を示しており、子どもたちの生活習慣・学習環境と学力とは、大きな相関関係があることがわかります。

○自尊感情



【小学校クロス集計】

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語A	国語B	算数A	算数B
当てはまる	33.5	74.9	59.7	81.8	63.0
どちらかといえば当てはまる	42.9	74.0	58.1	80.2	60.6
どちらかといえば当てはまらない	17.1	69.8	52.5	76.0	55.4
当てはまらない	6.4	67.5	50.6	73.1	51.4

【中学校クロス集計】

選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語A	国語B	数学A	数学B
当てはまる	23.1	79.7	52.2	68.2	61.2
どちらかといえば当てはまる	45.3	81.1	53.3	69.3	62.5
どちらかといえば当てはまらない	22.5	79.3	50.8	66.2	59.1
当てはまらない	9.0	77.8	47.7	61.4	53.5

○規範意識



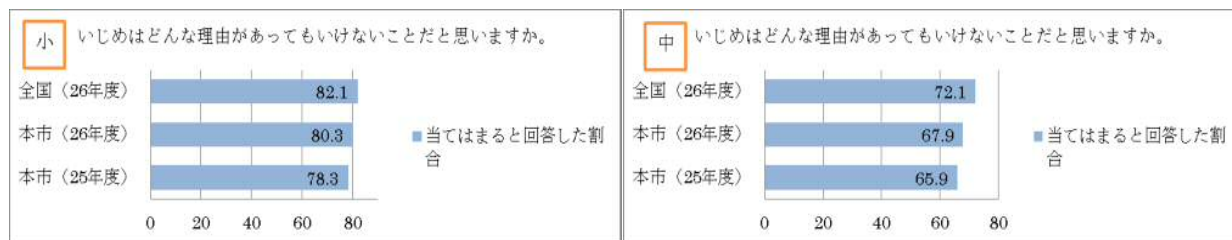
【小学校クロス集計】

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語A	国語B	算数A	算数B
当てはまる	37.9	75.3	59.8	81.7	62.6
どちらかといえば当てはまる	51.8	73.2	57.1	79.6	60.0
どちらかといえば当てはまらない	8.7	66.2	49.2	72.8	51.4
当てはまらない	1.5	59.8	42.2	66.1	40.8

【中学校クロス集計】

選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	数学A	数学B
当てはまる	46.3	81.7	54.4	70.6	63.7
どちらかといえば当てはまる	45.3	80.1	51.8	67.3	60.5
どちらかといえば当てはまらない	6.5	72.3	41.2	55.1	46.3
当てはまらない	1.8	64.0	31.7	44.9	35.5

○規範意識（いじめ）



【小学校クロス集計】

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	算数A	算数B
当てはまる	80.3	74.0	58.2	80.2	60.7
どちらかといえば当てはまる	15.9	71.0	54.6	78.6	58.8
どちらかといえば当てはまらない	2.4	66.3	47.0	73.4	51.3
当てはまらない	1.1	64.4	45.0	71.4	46.3

【中学校クロス集計】

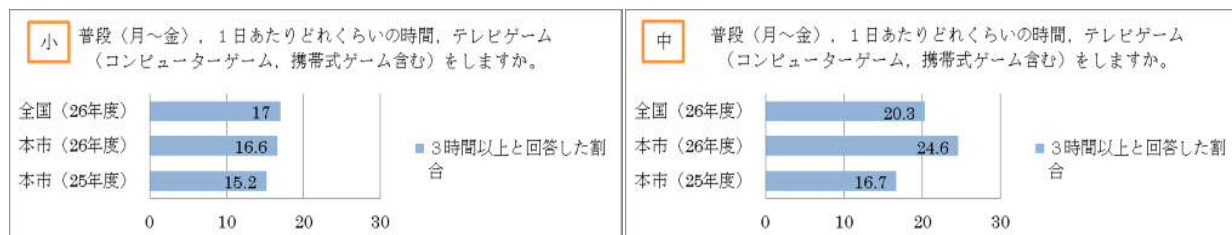
選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	数学A	数学B
当てはまる	67.9	80.3	51.9	68.0	61.1
どちらかといえば当てはまる	24.2	80.1	52.6	68.0	60.6
どちらかといえば当てはまらない	5.4	78.0	51.3	64.4	56.5
当てはまらない	2.4	75.5	48.5	61.5	54.1

（４）ゲーム・携帯電話（スマートフォン）利用

平日にテレビゲーム（携帯ゲーム含む）を「３時間以上する」児童生徒は年々増加しており、「全くしない」、「１時間より少ない」児童生徒と比べて、正答率に明確に差が出ています。

また、今回はじめて調査のあった携帯電話・スマートフォンでのメール、インターネットの利用時間（ゲームを除く）についても、特に中学校において「３時間以上する」生徒が全国平均と比べて多く、テレビゲームの利用時間と同様、「持っていない」「１時間より少ない」児童生徒との正答率に明確な差がみられます。

○ゲーム時間



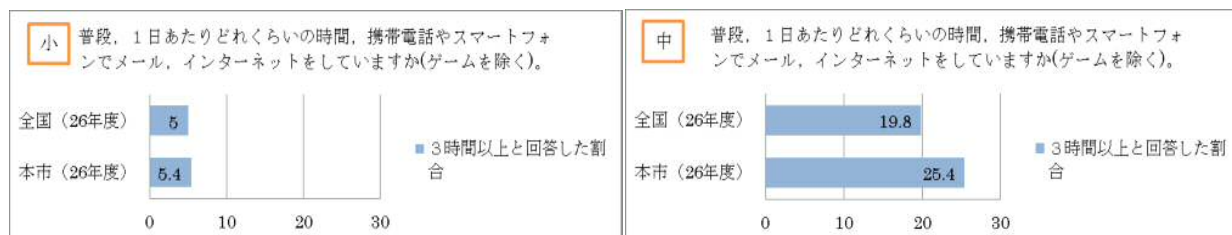
【小学校クロス集計】

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語A	国語B	算数A	算数B
4時間以上	9.0	63.8	46.9	70.1	47.5
3時間以上, 4時間未満	7.6	67.3	49.8	74.7	52.5
2時間以上, 3時間未満	12.9	69.4	52.2	76.7	55.0
1時間以上, 2時間未満	23.8	73.8	58.3	80.6	61.1
1時間より少ない	31.9	75.7	60.3	81.8	63.3
全くしない	14.6	78.8	63.3	84.0	66.8

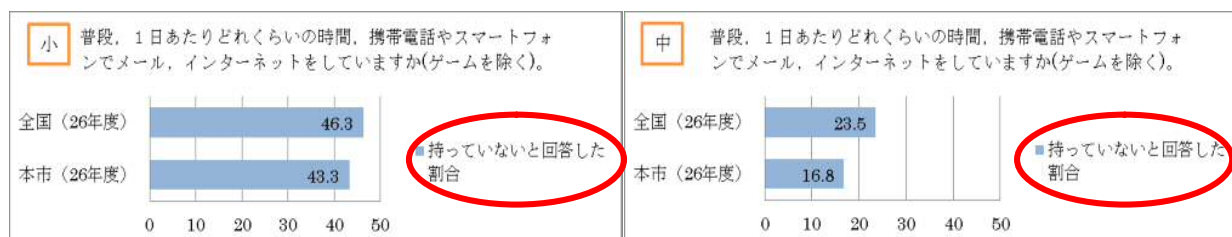
【中学校クロス集計】

選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語A	国語B	数学A	数学B
4時間以上	14.2	72.3	41.3	55.6	47.4
3時間以上, 4時間未満	10.4	76.9	46.3	62.0	55.2
2時間以上, 3時間未満	15.0	78.4	49.1	65.8	58.4
1時間以上, 2時間未満	20.3	81.1	53.6	70.4	63.7
1時間より少ない	25.3	83.2	56.7	72.7	66.3
全くしない	14.7	84.3	58.7	72.5	65.1

○メール、インターネット利用時間（3時間以上） *26年度新設



○メール、インターネット利用時間（携帯電話、スマートフォンを持っていない）



【小学校クロス集計】

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	算数A	算数B
4時間以上	2.9	62.0	45.9	66.1	43.2
3時間以上, 4時間未満	2.5	64.1	46.6	69.0	44.9
2時間以上, 3時間未満	3.9	66.5	49.2	72.7	50.2
1時間以上, 2時間未満	5.7	68.2	53.3	74.4	52.8
30分以上, 1時間より少ない	11.0	71.1	54.0	77.7	56.4
30分より少ない	30.5	75.0	60.3	81.5	63.2
携帯電話やスマートフォンを持っていない	43.3	74.9	58.4	81.5	62.4

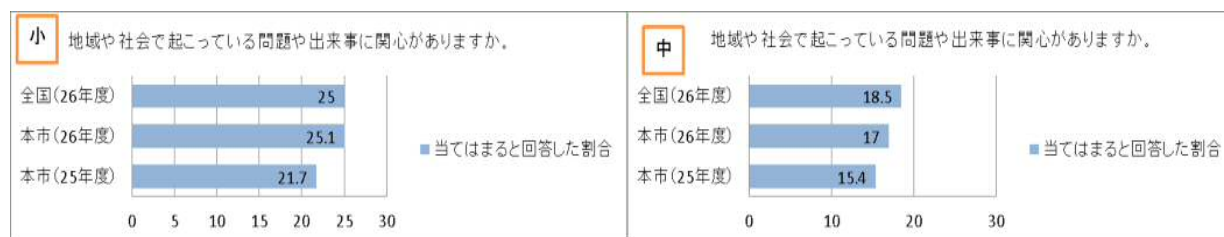
【中学校クロス集計】

選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	数学A	数学B
4時間以上	15.1	74.0	42.7	56.1	47.5
3時間以上, 4時間未満	10.3	77.7	47.1	61.7	54.3
2時間以上, 3時間未満	13.5	78.8	50.3	65.2	58.0
1時間以上, 2時間未満	14.8	81.2	53.0	69.6	62.3
30分以上, 1時間より少ない	12.9	82.0	54.8	72.1	65.5
30分より少ない	16.4	82.0	55.8	72.4	66.8
携帯電話やスマートフォンを持っていない	16.8	83.4	57.6	73.6	66.9

(5) 地域・社会に対する関心

全国的な傾向ですが、小学生から中学生へと進学するにしたがって、地域行事への参加率や地域社会の出来事への関心が減少しています。本市でもその傾向にあります。少しずつ「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」児童生徒も増加しています。また、概ね学力との相関関係も見られます。

○地域・社会への関心



【小学校クロス集計】

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	算数A	算数B
当てはまる	25.1	79.3	63.3	84.7	68.1
どちらかといえば当てはまる	35.5	74.9	59.0	81.3	62.0
どちらかといえば当てはまらない	27.5	69.3	53.8	76.3	54.9
当てはまらない	11.9	64.2	47.1	71.6	48.4

【中学校クロス集計】

選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	数学A	数学B
当てはまる	17.0	83.2	57.1	71.6	64.9
どちらかといえば当てはまる	37.8	82.6	55.5	70.8	64.4
どちらかといえば当てはまらない	30.4	78.8	49.5	66.2	58.9
当てはまらない	14.7	72.4	42.0	57.9	49.5

○関連項目



【小学校クロス集計】

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	算数A	算数B
当てはまる	13.1	77.5	61.0	82.9	65.1
どちらかといえば当てはまる	27.1	75.4	59.8	81.7	63.0
どちらかといえば当てはまらない	37.2	72.9	57.4	79.6	59.9
当てはまらない	22.4	68.3	51.5	75.1	53.3

【中学校クロス集計】

選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	数学A	数学B
当てはまる	8.0	80.5	53.8	68.6	61.0
どちらかといえば当てはまる	22.0	82.3	54.8	70.6	63.8
どちらかといえば当てはまらない	41.8	81.0	53.3	68.9	62.1
当てはまらない	28.0	76.8	47.3	63.4	55.8

4 京都市の学力向上の取組

本市では、子どもたちが身につけておくべき「確かな学力」を、基礎的・基本的な知識・技能はもとより、「習得した知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」、さらに「学ぼうとする意欲」「生涯にわたって学び続ける力」と定義しています。そして、「確かな学力」とともに、「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成を目指し、熱意あふれる教職員の実践はもとより、保護者・地域の皆様のご協力のもと、一人一人の学力を最大限に伸ばす取組を展開しています。

(1) 京都市学習支援プログラム

京都市では、小中学校の接続を意識して、宿題を含む予習や復習、既習事項が定着したかどうかをみる確認テストの実施など、自学自習の学習習慣（計画→事前学習→確認テスト→事後学習）を自ら身に付けるための取組として、「ジョイントプログラム」（小学校で平成 20 年度～）、「学習確認プログラム」（中学校で平成 18 年度～）を実施しています。確認テストでは、年間を通じて、児童生徒が学習につまずいたり、定着に課題がみられる単元・領域がデータとして継続的に蓄積されていきますので、全国調査の結果とともに、教職員間で情報を共有し授業改善に活かしています。子どもたちにとっても、自らの達成状況や課題が分かり、全市の中での学力状況を捉えて、進路実現に活かしています。

名称（開始年度）	学年	実施回数（合計）	実施教科等
プレジョイントプログラム （平成 23 年度～）	小 3	1	国語，社会，算数，理科
	小 4	1	
ジョイントプログラム （平成 20 年度～）	小 5	2	国語，社会，算数，理科 〔*5 回中 3 回は国・算で実施 *小 6 の最終回は中学入学直後に確認テスト実施〕
	小 6	3	
学習確認プログラム （平成 18 年度～）	中 1	1	国語，社会，数学，理科，英語
	中 2	3	
	中 3	2	

(2) 小中一貫による学力向上・キャリア発達支援

本市では、平成 23 年度から全ての中学校区で義務教育 9 年間の学びや育ちを見通した体系的な「小中一貫教育」を進めています。

具体的には、教職員が中学校区全体の「目指す子ども像」を共有し、小中合同の研修会や授業研究などを通して、互いの良さや効果的な指導法を学び、連携を深めています。また、中学校教員による小学校への出前授業による授業体験や、小学校児童の中学校での諸体験、近隣小学校の合同行事など、中学校の学習環境に戸惑うことなく、小学校から中学校までの 9 年間の見通しを持ってよりよい生活を送れるよう取組を進めています。

同時に、子どもたちが社会の中で自分らしい生き方を実現していく過程（「キャリア発達」という）を支援していくことも大切にしています。特に、中学生は自らの進路を決定するにあたり、重要な場面に直面することが多くあることから、小中学校の 9 年間を見通しながら、

生徒一人一人のキャリア発達を見据えた進路指導の充実にも努めています。

(3) 保護者・地域との連携による家庭学習への支援

学校運営協議会（平成 26 年 9 月末現在 215 校に設置）をはじめ、地域の方々・保護者・学生ボランティアの参画のもと、「土曜学習」（平成 23 年度から全小中学校で実施）や「放課後まなび教室」（平成 21 年度から全小学校区で実施）などの取組により家庭学習や自学自習の習慣の育成にも努めています。

教室の中での学習だけではなく、自然体験や伝統文化体験などの体験学習、防災・安全の取組など、学校運営協議会や地域が主催する行事や「みやこ子ども土曜塾」等の取組と学校が連携し、子どもたちが地域の方と交流する活動も大切にしています。子どもたちにとって、地域の方々に感謝したり、地域の一員として主体的に関わる意識を育む貴重な機会となっており、学力の基盤を形成する学ぶ意欲や態度を育み、自尊感情や自己肯定感の向上につながっていくものと期待しています。

その他にも、読書ノートを活用した「本」大好きな子どもを育成する取組や規範意識を育むための取組など、一つ一つの地道な取組がつながり、京都市の児童生徒の学力が少しずつ着実に伸びている一つの要因となっているといえます。

教育委員会では、冊子「自学自習のすすめ」において、学力向上を図るうえで大切な家庭学習のヒントをわかりやすくまとめ、児童生徒の小中学校入学時に配布しています。子どもたちと一緒に、是非ご一読ください。

◆自学自習のすすめ



資料編

~つかめ! たしかめ! ノートづくりのコツ~

ノートは学校の板書を写すだけのものではありません。それぞれの教科の先生の指示もあるでしょうが、その上で自分なりの工夫をしましょう。「世界でたった1つだけのノート」のために...

Aさんの工夫
ノートの左ページに学校での学習の板書を写し、右ページに自分でまとめたり調べたことを書き込んで整理しています。自分で学習した事項を整理することが、深い理解につながります。

Bさんの工夫
ノートを2冊用意して、1冊は学校での学習に、もう1冊は「自分勉強」用のノートにしてまとめたり調べたことを書き込みます。授業のあった日にこの作業をすると、それは立派な復習になります。極端なことを言えば、学校で書き込んだノートをもう1冊のノートに、確認しながらいいねに写すことから始めてもいいのです。

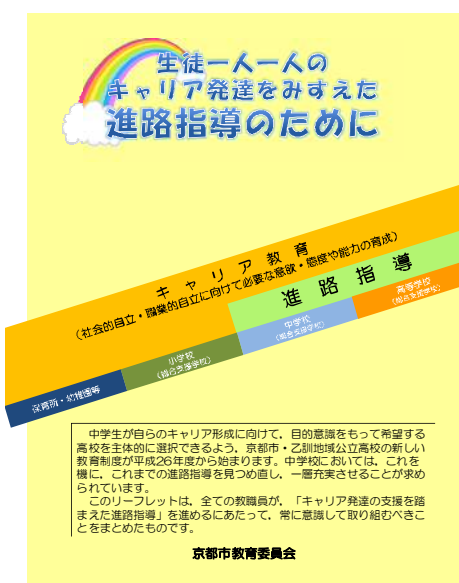
Cさんの工夫
得意のイラストを駆使して、キャラクターに吹き出しを作って重要事項を整理したり関連したことを絵で表したりして、見ているだけでも楽しいノートづくりをします。シールなどを上手に使う工夫もいいでしょう。

Dさんの工夫
学校での学習の板書を写すだけでなく、そこにどんどんとメモを書き込んでいます。最初は大変ですが、慣れれば気にならずに出来ます。自分だけの記号を決めておいてメモを取る時間の短縮もはかっています。

Eさんの工夫
学習した事項がある程度まとまると、自分でノートに「まとめテスト」を作ります。それを定期テスト前に解いています。「自分が先生になったつもりで問題を解く」。つまり、しっかり定着させたいと思う気持ちで作ると、自ずと大切なところが浮かびあがってきます。

注意したいこと
●色ペンを使うルールを、あらかじめ決めておきましょう。例えば重要語句は赤、基本の公式は黄色で囲むなど(色数が多いいは必ずしもいいことではありません)。
●文字はていねいに書くようにしましょう。上手でなくてもいいのに...ノートを書くということとはそのこと自体、文字の練習なのです。
●余白を十分にとりましょう。文字や図が詰まっていたら、それだけで見にくくなります。余白があれば後で書き込むこともできます。「後で書き込む」...それが自学自習のひとつかたちです。
●学習プリントをノートに貼る時は、のりを付け過ぎないのが、きれいに貼るコツです。プリントの四隅にのりを少しだけ付けて貼り、後で開きやすく、見やすいノートになるようにしましょう。

◆リーフレット「生徒一人一人のキャリア発達をみすえた進路指導のために」
(中学校教職員・保護者向け)



5 保護者・市民の皆様へ

平成 26 年度の調査結果は小学校及び中学校の 2 教科 4 科目の成績全てにおいて全国平均を上回る概ね良好な結果となっています。教科の結果だけでなく、子どもたちの学習に向かう意識や態度も向上し、無解答率も低く、最後まであきらめず、粘り強く取り組んだ成果が顕著に出ています。

また、「家庭での学習の時間が長い」、「読書が好き」、「規範意識・自尊感情が高い」、「携帯電話・スマートフォンの利用時間が短い」と回答する児童生徒ほど、正答率が高いという結果が明確に出ています。依然として課題が残るものの、改善傾向が見られることから、各家庭での子どもに対する積極的な関わりや声かけなどの成果が、着実に結果に表れはじめています。

学力は、学校と家庭・地域での地道な取組を重ねていくことで向上していくものであり、その基本は日々の生活習慣・学習習慣を身に付けることにあります。全国調査の結果は、都道府県別の順位や各教科の学校別成績に注目が集まりますが、調査結果は、学力の全てを表すものではなく、子どもが日々の授業や家庭での学習を通して、知識・技能がきちんと身に付いているか、習得した知識を活用できるか等の定着度を表す調査時点での指標です。

重要なのは、児童生徒にとっては、この調査をこれまでの自らの学習の成果をチェックする機会として、正答でなかった分野を繰り返し学習したり、次の目標を決め決意を新たにする契機として、今後の学習や生活につなげることです。また、学校にとっては、対象学年だけではなく、学校全体のこれまでの取組の成果と課題をまとめ、「学校だより」等でわかりやすく公表を行い、保護者・地域とも情報を共有して指導方法の工夫や家庭教育の充実などの取組に活かすことです。

学習支援プログラム、小中一貫教育など、本市の学力向上に向けた主な取組も紹介しましたが、子どもたちの頑張りは勿論のこと、その学びと育ちを支える学校、家庭、地域の力が結集されたものであるとも言えます。家庭学習の充実など各家庭での地道な取組、学校運営協議会や P T Aをはじめ、「子どもを共に育む京都市民憲章」の具体的実践に取り組んでいた多くの皆様のご協力のもとで、市民ぐるみ・地域ぐるみで子どもたちの学習環境を整え、「生きる力」の礎となる「学ぶ喜び」や「生活の知恵」を授けていただいていることが、今回の結果につながったものと確信しています。

この度お示しした結果は、あくまで全国や京都市全体の傾向です。これを受けて、各学校や各家庭・地域において、それぞれの子どもたちの状況に即した取組や指導を共に考え、行動を共有していくことが、子どもの力を伸ばしていくための大きなポイントとなってきます。子どもたちが夢と希望を持って未来を切り拓いていけるよう、豊かな学びと育ちのために、保護者、市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(本件に関する問い合わせ)
京都市教育委員会学校指導課
電話 (075) 222 - 3801